

北の湘南 3000人疾走

北海道新聞

発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社 2009

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

道新スポーツ

第二十二回春一番伊達ハーフマラソン

参加者、過去最高を更新



だて歴史の杜総合公園をスタートするハーフマラソン参加選手

【伊達】道内マラソンシーズン開幕を告げる「第二十二回春一番伊達ハーフマラソン」(春の合宿村まつり実行委、北海道新聞社主催)が十九日、伊達市のだて歴史の杜総合公園を発着点に繰り広げられ、ハーフマラソン一般男子は古田仁選手(札幌市)が1時間11分43で、同女子は房川典子選手(同)が1時間24分45で、春一番の栄冠をつかんだ。

今季最初の道内レースは、同時開催の全道小学生駅伝も含め、二十種目の参加申し込みは二千九百七十八人に達し、過去最高。札幌市(千四百四十四人)をはじめ室蘭市(二百三十七人)、函館市(二百二十二)、伊達市(百三十二人)など各地から申し込みが続出。申込者の最高齢は男性が北広島市の後藤武夫さん(89)一〇キロ、女性は室蘭市の佐々木セツ子さん(74)五キロ。

大会はフリーアナウンサーの喜瀬浩さんが「北の湘南伊達の春を感じながら無事戻ってくることを誓います」と力強く選手宣誓。次いで号砲とともにハーフマラソンの千七百五人がスタート、次いで小学生駅伝、一〇キロ車いす、三キロ、五キロ、一〇キロの各組が後を追った。

一団となって走るハーフマラソンの選手はだて歴史の杜から伊達高校前を左折し、市街地を通り、旧国鉄胆振線跡のサイクリングロードを経て、有珠山、昭和新山を眺めながら快走。ゴールのだて歴史の杜へとなだれこんだ。



噴火湾の風受け 一路ゴールへ



好天に恵まれた19日、「だて歴史の杜総合公園」の大手門前は、春一番伊達ハーフマラソンに参加した約3000人の選手たちでにぎわった。市内では一部サクラの開花も見られるが、まだ肌寒さが残る中、選手たちの表情はいきいきと輝き、春風の中を爽やかに駆け抜けた。

